

広報



No.312

しらす

平成8年 6月号



先生！
早くはやく

6月2日、村内各小学校で一齐に運動会が行われ、家族や先生が見守る中、自慢の健脚を競い合いました。

この日は晴天に恵まれ、元気に走る子どもたちにグラウンドのあちこちで声援が送られていました。

津波情報スピードアップ

衛星回線を利用し、
新システムで運用開始しています。



気象庁が発表する津波予報（津波警報・注意報）に関する情報を防災無線で自動的に放送する新システムが平成八年四月一日より運用開始しています。

この新システムは県内初の導入で、従来の津波情報伝達方法に比べ伝達時間が約五分短縮されることになり、住民の安全確保に素早い対応が可能となりました。

地震による津波

津波といえば、最近では平成五年に起きた北海道南西沖地震が思い出されます。この地震では、最大二〇メートルを超える大津波が発生し、震源地に近い奥尻島を急襲し、島の青苗地区に壊滅的な打撃を与えました。また、当村においても昭和五十八年の日本海中部地震による津波で、釣り人ら六人の尊い命が奪われました。

これらの地震では、地震発生から津波が襲うまでの時間が、ほんの五、六分で、従来の情報伝達ルートでは緊急を要する津波には十分な対応ができませんでした。

この教訓を踏まえ、村では津波情報を迅速に住民に伝達し、安全確保に素早い対応ができるよう県内初の新システムを導入いたしました。

迅速な津波情報伝達

従来の津波情報伝達方式では、気象庁から出された津波情報は地方気象台―早―夜場へとファックスで伝達、そのファックスを受けて、職員が村内にある二十六カ所の防災無線へ手動で放送するため、気象庁が津波情報を発令してから八分以上の時間がかかっていました。

この新システムでは、気象庁が発表した津波情報を気象衛星回線を使用し、直接役場内に設置したコンピューターが受信し、

■津波警報・注意報が発令されたときの放送内容

●大津波警報（避難指示）

「こちらは防災市浦広報です。（サイレン）津波警報発令、高い所で約3メートル以上の津波の来襲が予想されますのでただちに避難してください。」

●津波警報（避難指示）

「こちらは防災市浦広報です。（サイレン）津波警報発令、高い所で約2メートル以上の津波の来襲が予想されますのでただちに避難してください。」

●津波注意報

「こちらは防災市浦広報です。（サイレン）津波注意報発令、高い所で数十センチメートルの津波の来襲が予想されますので注意してください。」

※上記内容が2回繰り返されます。

■指定避難場所

- 「臨元地区」…臨元小学校
- 「磯松地区」…磯元放牧場
- 熊野宮境内
- 「十三地区」…十三山子地区
- 十三小学校
- 十三保育所

＝避難に際しての地区住民へのお願い＝

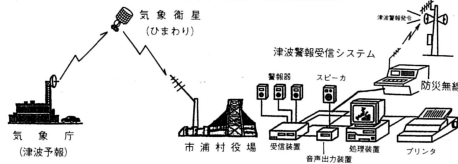
津波警報が発令された場合の避難は緊急を要するの
で、隣近所の一人暮らしの老人等と日頃から話し合い
により一緒に避難できるようご協力ください。

◎地震発生後の津波予報伝達ルートと比較

「いままで」 地震発生から約7～8分で気象庁の津波警報・注意報入手、その後役場及び消防職員の手動により防災無線放送



「新システム導入後」 地震発生から約2～3分で気象庁の津波警報・注意報入手と同時に自動で防災無線放送

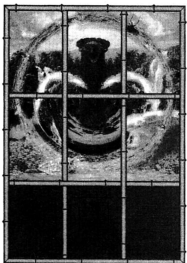


自動的により村内にある防災無線スピーカーから情報が流れる仕組みとなっている。これにより、地方気象台、県、職員が手動で放送という部分が省略され、約五分間の時間短縮となり、地震発生から約二、三分で情報が周知できることとなります。

村では、この新システムの導入により、迅速な避難勧告や沿岸地域住民の不安解消に役立つものと期待しています。



と
と
き
平成8年7月27日(土) ※雨天決行
開演 午後7時(開場 午後6時)
津軽半島十三湖特設会場(動物持参)



出演 姫神
共演 許可(胡弓) 渋谷和生(津軽三味線)
市浦村創作太鼓「東日流衆」 市浦
中学校合唱隊 蝦夷合唱団
特別出演 交流団体郷土芸能
入場料 大人(高校生以上) 前売り 2,500円
当日 3,000円
小人(中学生) 前売り 1,000円
当日 1,500円
主催 姫神・奥津軽十三湖コンサート実行委員会
※この事業は「地域の芸術環境づくり支援事業」
推進のためにジャンボ宝くじの売上金から助
成を受けて実施するものです。

津軽半島から奥美濃へ ——
姫神 日本、遥かなる風土への音紀行

よみがえる十三湊幻奏伝説 姫神・奥津軽十三湖コンサート

“十三湖の水面を渡る心地よい風、こうこうと輝く月の光、星がきらめく夜空の下、音と光と色の幻想の世界”
語り継がれる満月の湖上コンサートから2年。あの感動をよみがえらせるために、この夏ふたたび姫神十三湖コンサートを開催します。

今回のコンサートは「津軽半島から奥美濃へ—姫神 日本、遥かなる風土への音紀行」と題し、青森県市浦村、岩手県遠野市、宮城県若柳町、岐阜県白鳥町の姫神ゆかりの4市町村がネットワークを組んで実施するという国内でも類のないユニークなものです。

このコンサートでは、一昨年の十三湖コンサートでデビューした市浦村創作太鼓“東日流衆”や日本を代表する詩人の宗左近さんがこのコンサートのために特に寄せてくれた詩に、姫神が作曲、演奏して、市浦中学校合唱隊により唄われるオリジナル曲の披露、十三湊をテーマにした新曲「見上げれば、花びら」を唄う蝦夷(エミシ)合唱団との共演など、地域と一体となったステージが企画されています。

コンサート運営スタッフ募集中!

NEWS フラッシュ

北 欧の福祉の現状を学ぶ

あすなるホールで講演会

去る四月二十三日、青森あすなるホール（市浦）で高齢者介護保障を考える講演会が行われ、北欧の「福祉の国」の先達例を紹介しました。

これは近隣四町の福祉関係者で組織する洋軽北部地域福祉推進委員会が主催したもので、講師にはスウェーデン・リン



▲講演中のイブハマーさん



▲植樹する十三婦人会の皆さん

桜の苗木を植樹

夫妻から、地域ごとに高齢者のケアセンターがあるスウェーデンの現状や、緊急通報システムの実用などについて紹介されました。その後、神戸市看護大学の岡本裕三教授が、公的介護保険など新しい高齢者介護シ

ステムについて講演しました。参加した人々は、メモをとるなど熱心に聞き取り、迫り来る超高齢化時代における介護保障についての関心の高さがうかがえました。



▲講演には約130人が参加

十三婦人会

五月十二日、十三婦人会（会長・小山あぐり）の皆さんが、八重桜の苗木を植樹しました。植樹された場所は、県道郷ヶ沢・蟹田線の十三・栗山間の歩道わきで、五メートル間隔で約八百メートルにわたる、百本の苗木が植樹されました。

当日は、十三婦人会の皆さん約四十人がスコップやバケツを片手に集まり、朝八時から夕方にかけて行われ「末長く育ってほしい。毎年、きれいな花を咲

サ ケの稚魚を放流

本村では、昭和五十四年からサケ・マス放流事業を実施していますが、今年も四月二十五、二十六日の両日、稚魚の放流を行いました。

放流された場所は、十三湖マリリーナ護岸、道産一八〇万匹、地場産一八万匹のサケ稚魚を放流しました。体長五、六センチの稚魚は、ゆるみ始めた湖水に勢よく飛び出し、小さい命たちは群れをなして旅立ちました。

稚魚たちは、一週間から二週間日本海に出て約一万キロの

木並みに、観光に訪れたドライバーたちの目を引くことでしょう。

十三湖岸で一八九万匹

北太平洋への長い旅に出ますが、大きく成長して古里の川を忘れて帰ってくるのは、三、五年後になります。



▲大きく成長して戻ってこいよ！

好評です！一日ドック

村民八〇〇人が受診

四月十五日から十九日の五日間にわたり、B&G海洋センター体育館で一日ドックが行われました。

今年で四年目ということもあって、すっかり村民の皆さんにも定着したようで、どの検診もスムーズに進みました。今年の一、二日ドックでは、女性の方を対



▲健康チェックはバッチリ！



▲勢よく駆け出す市浦牛

五月七日、八日の二日間、村営五カ所で牛の放牧が行われ、親牛百八十五頭、子牛百一十二頭

市

浦牛の放牧始まる



▲保健診では朝食サービス

象とした骨粗しょう症健診も加わり、より一層検査項目が充実され、対象者の約六〇％に当たる八百人が受診しました。また、寿健診（七十歳以上）では朝食

水

を多く使っているのは？

十三小第四学年児童社会科学習

五月十日、十三小学校（校長・鍋田元）児童が村役場を訪れ、水道やゴミ処理のしくみについて学びました。これは社会科学習の一環として行われたもので、当日は第四学年児童四人と校長先生が役場を訪れました。児童たちは、水

村営牧場5ヶ所で放牧

の三百六頭の市浦牛が元気に牧場に駆け出していきました。この日は、子牛の登記登録や予防注射などの検査を行った後、農家や畜産関係者が見守る中、牛たちは野原に解放されました。牛たちは冬の間、狭い牛舎に閉じ込められていただけに、若草を食べながら土の感触を確かめるように広々とした草原を走り回っていました。

十一月いっばいまでは、村営岩井、脇元、古韻、実取、第二長根山の五地区の牧場で「モトキ」と悠々と鳴き声を響かせることでした。



▲説明のメモをとる十三小児童

を訪れた児童たちはその後、役場庁舎を見学し、ちよっぴり満足げな顔をしながら庁舎に帰っていきました。



四年後にまた会おうね！

小砂子小学校児童がサケ稚魚放流

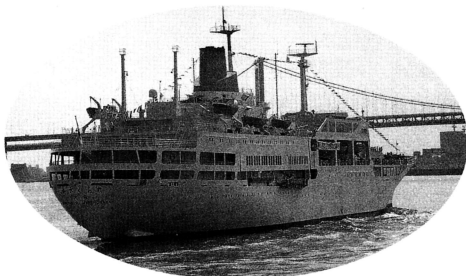
このほど、上ノ国町小砂子漁港内で、海中養殖しているサケの稚魚を小砂子小学校児童たちが放流しました。同校では、ふるさと学習の一環としてサケの餌付け観察や放流体験を毎年行っています。この日は、和田雄行校長の引率で全校児童十七人が参加。バケツの中から子どもたちが稚魚を放流すると、勢よく飛び出しました。子どもも「大きく成長してね！元氣にもどってきてね！」と呼びかけながら放流していました。稚魚は子どもたちの見守る中、元氣に泳ぎました。子どもたちは、立派に成長したサケが再び戻ってくるのを楽しみに漁港をあとにしました。



▲小砂子漁港内でサケ稚魚を放流

友好町村だより ⑨
かみのくに
情報ランド

国内体験航海 B & G 『少年の船』に参加して



財団法人B&G（ブルーシー・アンド・グリーンランド財団）では、国内の小・中学生を対象に、海上での各種研修や寄港地での海洋性スポーツ等を通じ、規則正しい団体生活の下に連帯と協調の精神を養い、友情を深め、海事思想の普及を図ることを目的に、体験航海事業を実施しています。

市浦村からは、秋田優太くん（脇元）と佐々木博幸くん（磯松）の二名が参加。春休み期間中の三月二十六日から四月一日の七日間の沖繩航海記を掲載します。

思い出の沖繩

秋田 優太

三月二十六日、待ちに待ったときがきた。目の前にある大きな船がこれから僕たちを沖繩へと運ぶ「新さくら丸」だ。あまりの大きさにとても驚いた。

船に乗るまで心配なことが二つあった。それは「友達ができるだろうか」と「船酔いをするか」です。部屋に入り「秋田優太です。よろしく」と大きな声で言ったら、みんなとすぐ友達になりました。しかし、僕の元氣もここまでで、初日の夜からもう一つの心配ごとだった「船酔い」に苦しみました。船の中で船長の話を聞いたり、運動会などを行ったりしてとても楽しかったです。

港を出発してから三日目、あこがれの沖繩へ着きました。まさか驚いたことといえば、脇元の



ちよっと船酔い気味？の優太くん

『少年の船』に乗って

佐々木博幸

三月二十五日、青森から東京まで飛行機で行き、その日は東京に一泊しました。次の日、東京暗海埠頭から「新さくら丸」に乗り、沖繩を目指して出港しました。



操舵室を見学した博幸くん

海は黒いけれど、沖繩の海は青く澄んだとてもきれいな海でした。沖繩では、ヨット、クルーザーなどに乗ったりしてとても楽しく過ごしました。また、玉泉洞、守礼の門などたくさんのお所を見学へ行き、そこにいた人達とともに仲良くなったりして、たくさん思い出ができました。

僕は家に帰って沖繩のことを少し自慢して話し、そして、今度は弟達を行かせてあげたいと思います。

ゼナラ船の中には知らない人たちが四百六十人ぐらいいも乗っていました。でも、少しずつみんなと話をしていくにつれて仲良くなり、不安がなくなりました。船に乗り三日後、ついに沖繩に着きました。沖繩では地元人の踊りで僕達を歓迎してくれました。だから、沖繩の旅がとても楽しくなりました。その中でも心に残った場所が首里城とパイオン園です。首里城は僕が一番好きだったところでした。沖繩の城は他の日本の城と違い、中国文化を取り入れた城で、飾りなど一つ一つがとても細かくできています。また、城の中で殿様がいた「玉座」は金でできていて、パイオン園は、パイオンをつくるのに二、三年もかかるという説明を聞いてすごく驚きました。そして、パイオンをワインにする工場を見学してとても勉強になりました。七日間の旅行も終わり、仲良くなった友達とも羽田空港でお別れし、少しさびしかったです。

沖繩でのこと、船でのこと、そして友達とは僕の心の中に忘れられない思い出となりました。また、機会があれば沖繩に行きたいと思っています。

フ
レ
ィ
フ
レ
ィ
白
組
!



▲何が当たるかな?



◀お母さん、早くボール

▼制服に身を包みマーチを披露



=脇元小学校=

みんなよく

がんばりました。



▲見よ!この軽やかな走り

▶早く出番こないかなあ?



|| 十三小学校 ||

= 相内小学校 =



▲うまくボールをのせて



◀みんな一緒に応援



▶緊張?のスタート



▲マラソンで独走中の岡悟くん

|| 太田小学校 ||

カメラフォト

小学校運動会

六月一日、村内小学校一
に運動会が行われました。
この日は、晴天に恵まれ、
一日中にぎやかな歓声がグラ
ウンドにあふれていました。

フ
ァ
ィ
ト
だ
!

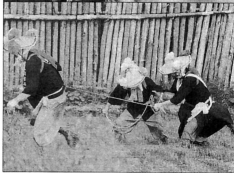
▶いよいよマラソンスタート



相内・桂川・太田
地区で虫送り

虫送りは、荒馬を先頭に、太刀振り
で五穀豊穰を祈願する勇壮な踊りとし
て知られているもので、毎年、田植え
作業もほぼ終わった6月上旬に賑やか
に行われています。

⑥ 太田地区



⑥ 相内地区

五穀豊穰祈願



⑥ 桂川地区



6月中に提出して下さい =児童手当現況届=

児童手当(特例給付)を受けている方は、6月中に「現況届」を提出することになっています。

この現況届は引き続き児童手当を受けるために、受給者の前年の所得状況と6月1日現在での児童養育の現況などを確認するためのものです。

なお、現況届を提出しないと6月以降の児童手当(特例給付)が受給できなくなりますので、必ず6月中に提出してください。

▶提出先

役場住民福祉課国民年金係まで。

「パソコン基本操作」の講座に参加しませんか!

五所川原第一高校ではパソコンを地域社会に開放するため、「パソコン基本操作」の講座を下記のとおり開講しますので、興味のある方は申込みください。

▶講座内容

- ・Windows95パソコン概要
- ・OASYS(ワープロソフト)基本操作
- ・Lotus1-2-3(表計算)基本操作

▶対象

18歳以上の男女

▶期間

平成8年7月8日～17日
(但し、土・日曜日除く)

▶時間

午後6時～8時30分

▶場所

五所川原第一高等学校
第2コンピュータ室(3階)

▶申込先

五所川原第一高等学校
対馬久美子(☎34-2347)又は、
台丸谷和美(☎34-3635)まで。

▶申込締切

平成8年6月28日(金)

▶定員

40名(定員になり次第締め切り)

▶受講料

無料(但しロッピー代150円必要)

工事関係者の皆さん

=電話線の切断には気をつけて=

建設土木等工事関係者の皆さん
誤って「電話線」を切断すると...

地域の通信が麻痺してしまい、
社会生活に大きな影響を及ぼすこと
になると同時に多額の設備復旧
賠償金も支払うこととなります。

NTTでは、設備事故を防止する
ため、無料で「工事立会」を行
っています。道路の掘削工事、建
柱工事等を実施する場合は、事
前に「工事立会」を実施のうえ施
工してくださるようお願いします。

市浦村の人口と世帯数

平成8.6.1現在

大字名	前月人口	人	世帯数
相内	1,304	1,299	411
桂川	72	71	23
太田	291	290	90
鵬元	558	557	199
磯松	314	313	113
十三	798	799	247
計	3,337	3,329	1,083

▶「工事立会」の連絡先

弘前市大字高田4-3-7
(NTT弘前支店LMC2F)
(株)NTT-E東北弘前サービ
センター

TEL 0120-23-8764
FAX 0172-26-3100

「在宅療養看護教室」 に参加しませんか!

五所川原保健所では、在宅療養者の生活を支援するため、地域の主婦などを対象に在宅療養看護教室を開催します。受講希望者は下記までに申込みください。

▶内容

日 程	内 容
7月23日(水) 13:00～15:30	開講式 講義 「看護の心構え」 実習 家庭看護法(寝巻・シーツ交換)
7月30日(水) 13:00～15:30	講義 「寝たきりにならないために」 実習 家庭看護法(排泄の世話)
8月6日(水) 13:00～15:30	講義 「自分たちでできるボランティア活動とは」 実習 家庭でできるリハビリテーション
8月22日(水) 13:00～15:30	施設見学 養護老人ホーム 地域福祉センター
8月28日(水) 10:00～15:30	講義・実習 「フランスのとれたたき生活」 救急法・実習 「救急法」 ボランティア活動の紹介 閉講式

▶場所

五所川原保健所

▶申込期間

平成8年7月1日～15日

▶定員

30名(定員になり次第締め切り)

▶受講料

無料

▶申込先

五所川原保健所健康増進課
(☎34-2108)まで。

県内の交通事故概況

青森県交通安全協議会

5月		累計	死者のうち	高 齢 者 の 死 者	
発生	616 (756)	3,130 (3,168)		10 (8)	10 (8)
死者	11 (15)	42 (45)		着 用 義 務 者 (着けなければならぬ人)	26 (23)
傷者	734 (920)	3,790 (3,901)		非 着 用 者 (着けていなかった人)	20 (17)
				着けていれば 助かっただと思われる人	8 (8)

()内は前年。累計は1月から。

